

2月		
10	火	結婚相談所
11	水祝	【建国記念の日】デイサービス等休日営業
12	木	ほのぼのランチ ほのぼのグループ意見交換会 (地域福祉センター)
13	金	脳元気教室
14	土	結婚相談所(9:00~12:00)
15	日	
16	月	
17	火	手芸教室 結婚相談所
18	水	
19	木	ほのぼのランチ
20	金	脳元気教室
21	土	
22	日	
23	月祝	【天皇誕生日】デイサービス等祝日営業
24	火	結婚相談所
25	水	わくわく商店街
26	木	ほのぼのランチ
27	金	脳元気教室 つばさの会 協力者会議 (つつみ住民活動センター)
28	土	
3月		
1	日	
2	月	
3	火	結婚相談所(14:00~20:00)
4	水	
5	木	ほのぼのランチ
6	金	脳元気教室
7	土	
8	日	
9	月	介護者リフレッシュ教室 (須坂市)
10	火	結婚相談所

～社協の予定～

★ご寄付をいただきました★

みなさまのご芳志に心よりお礼申し上げます

匿名 様	10,000円
匿名 様	7,196円
匿名 様	1,000円

お寄せいただいた寄付金は社会福祉基金に積立し、福祉事業に役立たせていただきます。温かいご芳志、誠にありがとうございます。

フードバンクにご協力をお願いします！

「もったいない」から「ありがとう」へ

フードバンクとは、まだ食べられるのに様々な理由で処分されてしまう食品を必要な方に届ける活動です。

町社会福祉協議会では、生活にお困りの方や施設等に届ける活動をしています。ご自宅に眠っている食品がありましたら、ご協力をお願いします。



ご寄付いただきたい食品

- 賞味期限が1ヶ月以上あるもの
- 開封されていないもの
- 常温保存可能なもの
- ※特に、カップ麺・乾麺・缶詰・レトルト食品が不足しています。

問合せ：つつみ住民活動センター
電話：33-2810

編集後記

※AIによるデジタルの進化が止まらないと感じています。AIは仕事や暮らしの中に生活の一部として定着していますが、そのアップデートも頻繁に行われ便利で効率的な分、その対応に追いつかないといけ時代「デジタル疲れ」も進行しています。そこで一切デジタルに触れない「デジタルデトックス」が注目されています。デジタルなしで生きていけない時代だからこそあえて離れる時間を作る、この生き方を実践していきたいです(ami)

※AI(人工知能)とは、人間の知能(学習・推論・判断・言語理解など)をコンピューターやソフトウェアで模倣する技術です。

社 是 安全・尊厳・満足 =地域住民のみなさまと共に歩む社協=

●福祉通信ちからこぶ 令和8年2月3日発行 ●発行者 社会福祉法人山ノ内町社会福祉協議会
●〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏 3371-2(山ノ内町地域福祉センター内) TEL 0269-33-1105 FAX 0269-33-8413
●URL <http://www.honobono-shakyo.or.jp> ●E-mail info@honobono-shakyo.or.jp



社協 HP

ちからこぶ

福祉通信「ちからこぶ」2026年2月号

赤い羽根共同募金

～ご理解とご協力ありがとうございます～

町民の皆様には、「赤い羽根共同募金」に、多大なお力添えを賜り厚く御礼申し上げます。
皆様からお預りした募金は、「住民同士が共に支え合う地域づくり」に必要な地域福祉事業への助成金として、活用させて頂いております(下記写真は助成金活用の事業例)。

令和7年度に皆様からお預かりした募金総額(確定額)は1,666,140円となりました。



～おせち料理(75歳以上のお一人暮らし世帯など)～



～サロン活動の様子～



赤い羽根共同募金の目安額について

Q. 任意の募金になぜ目安額があるの？

A. 共同募金は、社会福祉法に基づき実施する募金活動です。活動を行う際は、事前に町内の福祉団体等の要望を踏まえた助成計画の策定及び計画推進に必要となる『目標額』を決めます。
その際、目標額を達成するために目標額と世帯数の関係や前年度の寄付総額を考慮し、目安額を示しております。

これは、決して強制的な割当額ではございませんので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



令和7年度街頭募金



実施場所：道の駅北信州やまのうち

Information

山ノ内町社会福祉協議会 電話:33-1105 FAX:33-8413
つつみ住民活動センター 電話:33-2810 FAX:33-2830

町社会福祉協議会 副会長交代のお知らせ

町民生児童委員協議会長の新旧交代に伴い、以下の通りお知らせいたします。

《任期：令和7.12.1～令和9.3.31以降、最初の定時評議委員会開催の日迄》

新	旧
副会長：宮崎のり子（町民生児童委員協議会長）	副会長：湯本和幸（町民生児童委員協議会長）

やまのうち みんなの食堂 開催

子どもから大人、お年寄りまで、どなたでも気軽に集い、食事をしながら交流することを目的に開催します。当日はカレーライスを用意し、待ち時間には体操や読み聞かせなどのブースでお楽しみいただけます。皆さまのお越しをお待ちしております。

日 時：令和8年3月29日(日) 10:00～13:00(11:30受付終了)

場 所：山ノ内町文化センター 3階大ホール

参加費：中学生以下無料、高校生以上300円

問合せ：つつみ住民活動センター（担当：若林）



福祉大会 受賞作品紹介 -作文の部-

ぼくは、子ども食堂のボランティアに参加しました。学校でボランティア募集のチラシが配られたときに「ボランティアで誰かの役に立ちたい、やってみたい」と思いました。いろいろなあった中で「子ども食堂」を選んだのは、「いろいろな人と関わりたい」「自分で作ったごはんを食べて、みんなに笑顔になってもらいたい」と思ったからです。

会場に行ったら最初に料理を作るお手伝いをしました。たけのことピーマンを切りました。家庭科で習ったことを思い出して切りました。少し太すぎたり長すぎたりしてしまいました。でも、みなさんのアドバイスのおかげで全部切ることができました。次にポテトサラダを作りました。最初にゆでたジャガイモをボウルに入れて潰しました。次にマヨネーズと塩・こしょうを入れました。びっくりしたのは、マヨネーズの量です。70人分を作るのでたくさんの量を入れました。それを混ぜ合わせるのも力がいりました。もりつけもしました。ちょっと失敗しても優しい言葉をかけてもらいました。

料理が完成して会場に運ぶとき、「おいしくたべてくれるかな」と少し心配しました。会場にはたくさんの方がいました。ぼくは、はしをわたくしました。みんなに「ありがとう」「えらいね」と声をかけてもらって、とてもうれしかったです。一緒にご飯を食べる時、周りの人とお話することができて楽しかったです。ご飯を食べてみるととてもおいしかったです。みんなも笑顔で食べてくれて、「ボランティアに参加してよかったな」と思いました。

ぼくが、子ども食堂で一番に残ったことは、料理を作っている人たちの「支え合い」です。みなさんは、料理を作る時に周りの人が楽しくなるお話をしていました。また、何か失敗した人がいても、気にかけて温かい言葉をかけて支えていました。ぼくが分からないことがあった時も、やさしく声をかけてもらいました。その支え合いの心が、お客さんがたくさんくる理由の一つなのかなと思いました。

みんなを笑顔にする温かい食堂「子ども食堂」に、また参加したいなと思いました。

題名 「温かい食堂」 子ども食堂ボランティアに参加して

金賞 加村 仁 さん（南小学校六年）

題名 「子ども食堂」のボランティアに参加して

金賞 湯本 英寿 さん（南小学校六年）

ぼくは、夏休みに「子ども食堂」のボランティアをしました。ぼくは、料理に興味があったので参加しました。初めてこういうのをやったので少し緊張したけれど、一日を通していろいろなことを学び、心に残る日になりました。

朝の9時に会場につくと、もうすでに何人かの大人の人たちが食事の準備をしていました。メニューは「ジャージャー麺」を作ると聞いていたので、わくわくしながらエプロンを着ました。ぼくは、料理は好きだけど中華料理を作ったことがなかったからとても楽しみでした。

まず、ジャージャー麺の具材を切りました。たけのこを切った時に指をきってしまいました。でも大人の人たちが「大丈夫？」と言ってくれてうれしかったです。その後は、ジャージャー麺のソースを作りました。70人分だからテンメンジャンやしょうゆの量がすごく多かったです。子ども食堂の大変さを感じました。

お昼になると、子どもたちが次々にやって来ました。大人の人たちも来てくれて「おいしそう！」「いいにおい！」「言ってくれてうれしかったです。ぼくは、おはしを配るだけだったけれど一人一人が「ありがとう」と言ってくれてうれしかったです。となり座っていたひとたちに「えらいね」「ありがとう」と言われた時、「ありがとう」って言ってくれたりみんな楽しそうに食べてくれたりして、ぼくの方こそ「ありがとう」と思いました。

ぼくが一番に残ったことは、自分たちが作ったジャージャー麺をみんなで仲良くおいしそうに食べていたことです。ふだんはあたりまえのように食べているごはんも、「だれかが心をこめてつくっているんだなあ」と、ありがたさを感じました。また、1人ではなく、みんな楽しく食べることも大切なことだとあらためて感じました。お年寄りから小さい子どもまで、誰でも気軽に行くことができる「子ども食堂」に、人と人とのつながりを感じ、心があたたかくなりました。

ぼくは、このボランティアを通して、料理を作る楽しさや人のために何かをする大切さを学ぶ事ができたと思いました。「これから子ども食堂のボランティアに参加したい」という気持ちが出てきました。そしてもっといろいろな料理を作って多くの人に「おいしい」と喜んでもらえるようになりたいです。

